

第1回 天竜川ダム再編事業 恒久的な堆砂対策運用検討委員会

議事要旨

日 時：令和8年9月9日（水曜日）13：30～15：20

場 所：アクトシティ浜松 コンgressセンター

22・23会議室

1. 開会

2. 開会挨拶

開会挨拶（中部地方整備局 天竜川ダム再編工事事務所長）

3. 議事

（1）設立趣意書（案）について【資料－2】

・意見なし。

- 設立趣意書（案）について審議を行い、了承された。

（2）委員会規約（案）について【資料－3】

・意見なし。

- 委員会規約（案）について審議を行い、了承された。
- 委員長に戸田委員を選出した。

（3）恒久的な堆砂対策運用検討委員会について【資料－4】

・佐久間ダム下流で河川に還元した土砂が、本当に天竜川河口まで到達するのか懸念している。土砂還元により河川が細粒化する可能性も考えられるため、環境面に一層目を向けていただきたい。

⇒総合土砂管理計画の検討において、長期的な土砂移動をシミュレーションしており、その結果では、還元した土砂の大部分が河口まで流下すると推定されている。検討結果の詳細については、次回委員会にて説明する。

・局所的な堆積が生じるかどうかなど、十分解明されていない事項があるため、本委員会の検討範囲において、環境上注視すべき場所等を確認し、総合土砂管理計画検討委員会へフィードバックしながら進めていくことが重要。総合土砂管理で検討されている内容についても、重要な内容は共有していただくとよい

・利水者からは、近年、用水路に濁水が流入し、土砂の堆積やポンプの摩耗が早くなるなど、維持負担が増していると聞いている。将来的には土砂還元量が増えることになるの

で、利水者の理解を得られるように、因果関係の確認を含め適切な情報提供・説明をお願いしたい。

⇒土砂還元との因果関係については、本委員会の助言を得ながら検討を進めるとともに、利水者との意見交換を継続的に行い、不安の解消に努めていきたい。

- ・佐久間ダムの下流区間で見られている一時的な堆積について、出水で堆積した土砂が出水後に少しずつ流出して元に戻っているのか、次の出水が発生するまでは残っているのか、一時的な堆積の時間スケールがアユの生息場への影響を考える上で重要である。また、土砂の堆積がどのような場所で起こっているのか、地形条件との関係について教えてほしい。

⇒堆積の継続期間や堆積箇所の特徴については、データを確認し次回委員会にて説明する。

- ・小規模出水時に土砂が一時的に堆積し、その土砂は徐々に下流へ移動していくと考えられるが、土砂堆積がどの程度の期間で解消するのかについては、漁業者の方にとって重要な事であるので、次回委員会で説明してほしい。

- ・土砂還元により粒径 2mm 以下の細粒分が増えることで、アユの生息に不向きな環境になることを心配しており、対応をお願いしたい。

- ・土砂還元を用いる細かな砂は、多くが海岸まで移動し、その過程で藻類の剥離更新を促進してアユの餌環境を改善する側面も考えられる。一方で、より粒径の小さい土砂は濁りの要因となり、局所的に堆積して影響を与える可能性もある。河川環境に対する粒径成分ごとの役割や懸念点、また、土砂還元の目的や河川・海岸環境の目標像について、関係者と共有することが重要であるため、分かりやすいイラストやシナリオ等を示してほしい。

⇒粒径別の土砂動態と河川環境との関係や、土砂還元により目指す河川・海岸の姿については、次回以降の委員会にて、分かりやすく説明していく。

- ・天竜川本川の変化を理解するには、土砂供給量が多い気田川等の支川と比較することも参考になる。また、支川がアユの生息環境に良いのであれば、その環境を目標とすることも考えられるが、支川は本委員会の検討範囲に含まれるのか。

⇒気田川等支川については本委員会の検討範囲には含めていない。総合土砂管理計画検討委員会での検討結果を共有いただき、天竜川本川と支川の変化を比較したい。

- ・ダム運用について、利水の観点では佐久間ダム・秋葉ダム・船明ダムを一連で検討する必要がある。特に船明ダムでの取水に影響があると、利水者への影響が大きくなるため、総合土砂管理計画検討委員会と十分連携してほしい。

⇒総合土砂管理計画検討委員会と連携して、検討を進める。

- ・本委員会では、利水者・漁業者が懸念する事項を把握し、堆砂対策との因果関係を分析する。そのうえで、堆砂対策の具体的な運用で改善できる課題と、総合土砂管理で扱う

べき流砂系全体の課題を整理し、本委員会と総合土砂管理計画検討委員会が連携して取り組むことが重要である。

- ・委員、オブザーバー及び事務局が共通認識を持ちながら検討を進めることが重要である。

(4) 今後の進め方について【資料－5】

- ・秋葉ダム下流には天竜川漁協が管理するニジマス釣りの区間があるので、秋葉ダムスルーシングの影響についてシミュレーション結果を示してほしい。

⇒秋葉ダムスルーシングによるニジマスへの影響については、放流時期等の情報も伺いながら検討する。なお、土砂還元及びスルーシングは一定規模以上の出水時に実施する計画のため、出水が少ない冬季に実施することは基本的には無いと考えている。

- ・秋葉ダムスルーシングに関しては、本委員会と電源開発株式会社が連携して検討に取り組むことが重要である。

- ・スルーシングによる環境の変化を十分調査し、現在の環境をこれ以上悪化させず、現状を維持できるように取り組んでいきたいので、国やダム管理者等の協力をお願いしたい。

- ・ダムを設置することで、土砂を留め、河川に少なからず影響を及ぼしてきたので、これまでも漁協他流域関係者と河川環境の回復・改善に取り組んできた。土砂還元は、更なる再生に貢献できる対策と考えている。他河川では、土砂還元により河川環境が改善した事例もあるので、そうした情報も共有して国や河川利用者等と一緒に検討していきたい。

- ・土砂還元については、各地で行われているので、事例紹介をする機会があると良い。天竜川より大規模に土砂還元をした場合に、どのような事象が起きているのか、色々な事例を共有していくことは大事である。

- ・土砂資源の民間活用について、新規事業者の参入も想定しているのか。利用しにくい細かい土砂を川へ戻すようなことをされると、濁りの長期化につながるため、採取・処理方法を検討してほしい。

⇒砂利採取については、河川法の許可条件をしっかりと守っていただくように指導していくことが大事だと考えている。

- ・土砂資源の利活用については、利用者側のニーズなどは本委員会のメンバーだけでは十分な議論ができない可能性がある。別途、検討の場を設けることになるのか。

⇒今後の進め方として、砂利採取の関係団体等と別途意見交換を行い、その状況を本委員会に共有して、利活用の在り方について助言をいただくことを想定している。

- ・近年、天竜川では渇水が増え、利水者の不安が大きい。秋葉ダムスルーシングによる利水への影響についても検討し、影響を避ける運用をしてほしい。

⇒秋葉ダムスルーシングについては電源開発株式会社においても検討中であり、その結果を共有いただきながら具体的な運用について検討する。利水に影響する水位まで低下させる必要がある場合は、取水設備の改造等も検討することになる。また、スルーシ

ング実施後に水位が回復できるかどうかといった点も考慮しながら、実施判断基準を検討する。

- ・秋葉ダムスルーシングについては、上流からの土砂を効果的に流すこと、中長期的観点から河川環境や利水者への影響を生じさせないことを前提として、実施基準や水位の下げ方、船明ダムとの連携運用等を検討中である。渇水に関しては、スルーシングは一定規模以上の出水時に実施する計画であり、渇水の恐れがある場合に実施することは無い。また、秋葉調整池の水位低下に伴い、直上流の三方原用水取水口の改造を行うことになっており、国と対策を検討し、本委員会にて説明し理解を得ていきたい。

ネイチャーポジティブの観点も踏まえ、天竜川ダム再編事業の目的である下流の洪水被害の軽減と土砂移動の連続性の確保を両立すべく、流域の関係者と共に検討していきたい。

- ・本委員会は、事務局より提示された 3 項目を検討軸として進めていくこと、また、次回は現地視察とし、その後の内容は委員会での意見を踏まえて適宜議題を見直すこととするが、現時点では事務局案で進めていきたい。

- 委員会の今後の進め方について審議を行い、了承された。

4. 閉会

閉会挨拶（天竜川ダム再編工事事務所長）

以 上